

外国語教育メディア学会（L E T）関西支部中学高校授業研究部会・  
京都教育大学英語の教え方研究会 主催

## 2015年度 5月例会のご案内

日 時： 2015年 5月 10日（日）13：30～17：00

会 場： 京都教育大学 CALL教室（1号館B棟4階）  
（アクセスは<http://www.kyokyo-u.ac.jp/>から）

参加費： L E T会員・英語の教え方研究会会員 無料  
京都外国語大学英語教育研究会会員 300円  
学生 200円 一般 500円

問い合わせ先： 西本有逸（京都教育大学） yuitsu@kyokyo-u.ac.jp  
鈴木寿一（京都外国語大学） j\_suzuki@kufs.ac.jp

内容：

13：10～ 受付  
13：30 開会

発音指導・音読指導・オーラルインタープリテーション

京都教育大学 西本有逸

above をアブオヴ，again をアゲイン（もちろん容認可能ですが），acoustic をアコースティック，work をウワーク，walk をウアーク，hospital をホスピタルと発音する中学生・高校生・大学生がいます。英語は国際共通語，world Englishes の時代ではありますが，英語教員は正しい発音を示す必要があると思います（もちろん“正しい”には種々議論があります）。

発音指導を体系立てて取り組むより，音読指導の中に取り込む，あるいはオーラルインタープリテーションの中で扱う方がずっと楽しいのではないのでしょうか。その辺りのことを実際の教材を使って考えてみたいと思います。

途中休憩

## 生徒の達成感を高める発音指導

甲南高等学校中学校  
杉本智昭

先日、息子と『「妖怪ウォッチ」誕生の秘密だニャン!』を観に行った時のこと。マスターニャーダが主人公のケータに“フォース”ならぬ、“ホース”を渡すシーンがあり、子どもにこの違いを伝えようとするのは乙だなあと感じました。カタカナではフォースやホースでも、英語では force, forth, horse, hose。まったく意味が違います。私たちの生徒たちはこの違いを理解して、正しく発音できるでしょうか。本発表では、中学1年生から持ち上がってきた学年（現高校2年生）の生徒にどのように発音指導をしてきたか、どのように発音に意識を向けさせる工夫をしてきたかを具体的な事例を交えながらお話致します。また、参会の皆様とよりよい発音指導について一緒に考えることができればと思っています。

17:00 閉会

今後の予定：諸般の事情で日程・会場が変わる可能性もあります。

7月12日（日）例会 於）京都教育大学  
9月13日（日）例会 於）京都教育大学  
10月11日（日）例会 於）京都教育大学（LET 秋季大会の関係で中止の可能性あり）  
12月13日（日）例会 於）京都教育大学  
1月10日（日）例会 於）京都教育大学

3月19日（土）・20日（日）第22回中学高校教員のための英語教育セミナー  
於）キャンパスプラザ京都